

## ハレルヤ保育園将来構想

(2008年12月8日作成)

ハレルヤ保育園の将来構想について、現代の子どもとそれを取り巻く環境の変化、家族の変化、子どもの心身の変化、さらに聖書に基づく人間観を考察し、保育理念及び保育目標を中心に保育内容、保育施設の今後の展望について取りまとめた。

### 1 保育理念及び保育目標

保育理念：「神と人を愛する自立した子どもを育てる。育児にかかわる親を支援する。」

保育目標：聖書に基づいて万物の創造者を教える。また、モンテッソーリ教育で身体の動かし方を教える。そのことにより自分の頭でよく考え、自分の身体をよく使って、自分のやりたい事を追求したり展開したりできる子を育てる。

### 2 現代の子どもとそれを取り巻く環境の変化

核家族、少子化により、かつてのように多人数の家族の中で、祖父母、父母、兄弟姉妹という多様な人間関係の中で育てられていくということがなくなった。テレビが家族の団欒に入り込み、家族の対話の時間を奪っている。また、小児科診療所に来る子どもの変化を長年見てきたが、30年前では小学校高学年の子ども達のほとんどが、親の助け無しで自分の身体症状を医師に説明することができた。しかし、現代では中学生になっても親の助けが必要な子が多い。子ども達の言語能力が低下していると言える。自分の気持ちを言語化することができず、対話する力が育っていない。また、ITやメディアにより情報が容易に取得できるようになったことやテレビゲームの出現により、室内での遊びが多くなり、外で遊ぶことが極度に減少し、かつてのように、『地域での子どもの群れ』は消失した。これは、都会に限らず田舎においても見られる全国共通の現象である。『地域での子どもの群れ』は、年少者から年長者まで縦の社会を作って活動していた。その中で、社会のルール、他人と交渉する力、社会の中での自分の役割、責任の取り方を身に着けていた。現代の子ども達は、自分の気持ちを伝えることと相手の立場を理解するという人間関係の構築のための基本的な技術を習得することができていない。人間関係を上手く築くことができない人が多くなっている。このように、社会全体で人間関係の希薄化が進んでいるといえる。

### 3 家族の変化

核家族化は進んでおり、世帯当たりの人数で見ると一世帯平均構成人数は平成17年で2.31人であり、減少の一途をたどっている。かつてのような三世帯同居の大家族は少なくなり、離婚による片親世帯も増加している。このような背景は、家庭の養育力、あるいは教育力の低下に影響を及ぼすと考えられる。また、被虐待児が増加している。そのような家庭では家族の保護能力がなくなり、逆に家族は子供に危害を与える加害者となっている。そこではもはや、家庭は子ども達にとって、安息と保護を受ける港ではなく、生命の危険をもたらす戦場となっている。

### 4 子どもの心身の変化

戦後、食の欧米化などの影響もあり、子どもの身長や体格は目覚しく向上した。しかし、最近では、肥満の子どもの割合が増えている。その要因としては運動不足や孤食などの食行動の変化、軟らかいものや脂肪分の多いものなどの偏った食事の影響が挙げられる。また、夜型の生活リズムや習慣化された長時間のテレビゲームなどの影響によるゲーム脳(前頭前野の脳波異常)を呈した子どもが散見される。身体活動の低下から身体で覚えて身に着けることが少なくなり、不器用となっている。つまり、経験不足の子どもが多くなっている。そして、自信のなさからくる自主性、主体性の欠如がある。

最近では、発達障害の子どもたちが増加しており、小学生の6~8%に注意欠陥多動性障害、学習障害、高機能自閉症などを疑わせる子ども達がいると言われている。

## 5 聖書に基づく人間観

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは、御子を信じる者がひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。(聖書)」

「罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。(聖書)」

天地万物を創られ、統べ治めておられる全能の神が、私たち一人一人を高価で貴い存在として、愛しておられる。私たち人間は、自らの罪のために滅ぶべき存在である。しかし、神は、私たちのそのような状況を見過ごしていることができずに、人類に対する深い愛と哀れみのゆえに神のひとり子であるイエス・キリストをお与えになった。キリストは神であったが、人の子として処女マリアからお生まれになった。その生涯を通して、罪無きお方であったが、私たち人間のすべての罪を背負って、私たちの身代わりとなって十字架の刑に処され、死んでくださった。その後、3日目に復活し、40日間地上におられて多くの弟子たちにご自身を現され、天に昇って行かれた。キリストを信じる者は罪のろいから解放され、滅びから命へと移される。それ以来、このすばらしいニュースは全世界に広がり続けている。

神は、結婚を祝福し、家族を祝福しておられる。また、「子どもたちを、わたしのところに来させなさい。止めてはいけません。神の国は、このような者たちのものです。(聖書)」と、子どもがイエスの周りに来るのを喜ばれ、子どもを祝福しておられる。

子どもの命は、一人の人間として受精のときから始まる。命は、受精卵から胎児、乳児から子ども、大人から老年に至るまで繋がっている。子どもは、保護され、祝福され、家族の中で養育されるべき存在である。また、大人のように器用に物事をするができないからといって、子どもは侮られてはいけない。一個の人格として大切にされるべき存在である。親は、子どもを自らの所有物として扱うのではなく、神から養育を任された者として扱うべきである。

## 6 ハレルヤ保育園の基本方針

これらのことを踏まえ、キリスト教の視点から現代社会における保育のあり方を考え、以下の保育理念と保育目標に基づく事業をハレルヤ保育園において展開していく。

**保育理念** 「神と人を愛する自立した子どもを育てる。育児にかかわる親を支援する。」

- (1) 神を愛する 自己を越えた存在である神に対する畏敬を持って神のご性質である正義と愛を追求する人。
- (2) 人を愛する 他者に自分の気持ちを伝えることができ、相手の立場を理解することができる人。ひいては社会に貢献できる人。
- (3) 自立する 教育力が引き出され、自立に向けて自分を展開していくことができる人。意欲を持って取り組み、その結果についても責任を取っていける人。
- (4) 親への支援 孤立した育児にならないように、また、仕事と育児の両立を援助。  
家庭の養育力、教育力の確保に向けての支援

**保育目標** 聖書に基づいて万物の創造者を教える。また、モンテッソーリ教育で身体の動かし方を教える。その事により自分の頭でよく考え、自分の身体をよく使って、自分のやりたいことを追求したり展開したりできる子を育てる。

### 具体的な取り組み

- (1) モンテッソーリ教育導入……自立へ向かって、自己教育力を引き出す。体験を積む。
- (2) 縦割り保育の導入……縦横の多様な人間関係に対応できるようになる。
- (3) 子育て講演会開催……子育ての先輩からのアドバイス、小学校へ入ってからの育児のポイントを伝達する。
- (4) 園外の人々(老人、学生、外国人等)との交流……異年齢、異文化の人々から違いを学び違いを尊

重する事を学ぶ。

- (5) 嘱託医(小児科医)による健康相談……園児の個別健康相談(随時受付、無料)
- (6) 病児への対応……保育中の急な病気に対して、保護者に連絡することと嘱託医と連携し、病気への早期対応を図る。

## 7 今後の展望

今後における展望としては、次に掲げる事業活動をしていく。

- (1) 病後児一時預かり事業について……子供の病気のときに嘱託医と連携を取り、病後児 保育施設で対応する。
- (2) 放課後学童クラブについて……小学生の放課後保育施設並びに病児保育施設を設ける
- (3) 不登校学童対応施設について……学校へ行けない子どものための自由活動の場としての施設を提供し、保育園児との交流を通して、自己有用感の醸成を図る。
- (4) チャーチスクール……学校へ行けないあるいは行かない子どもに個別に対応した学習を指導。有資格の教師による授業をし、中学卒業認定試験合格を目指す。また、世界のグローバル化に対応できるよう英語、韓国語の習得を図る。アイデンティティ確立の為に聖書の学びをする。

## 8 今後の施設運営

以上のことを実施するためにその施設として、次に掲げる施設を構想していく。

園庭……現在の園庭は狭小なため、森林公園、ポニースクールなどの園外施設を利用している。将来は充分広い園庭を確保する。

園舎……充分な活動ができる広さを確保する。

附属施設について……病後児保育施設、学童保育施設、不登校学童対応施設、インターナショナルチャーチスクール

## 9 まとめ

ハレルヤ保育園は、1995年9月に開設し、その後、2001年4月からは認可保育園として運営してきている。また、本年(2008年)4月からは社会福祉法人化し、社会福祉法人プレイズザロードの保育施設として発足している。この将来構想は、法人化を契機に、20年先を見越した本法人の、またハレルヤ保育園としての将来進むべき方向性を取りまとめたものである。ここに記した内容を実現させるには、多くの困難な問題があることも承知しているが、必ず実現されることを確信し、この目標に向かって日々の保育活動に励むものである。関係者のご理解とご協力を賜りたい。

以 上

## ハレルヤ保育園保育課程自己点検自己評価

(2011.10.21 作成)

園長 森田恵・主任 越後屋浩美

ハレルヤ保育園(以下「保育園」という。)は、1995年9月に無認可保育園として開園し、その後2001年4月から認可保育園に、そして、2008年4月から「社会福祉法人プレイズザロード」の保育施設として運営してきている。

『保育』のスピリットは、キリスト教精神に基づく保育活動である。本園の「保育課程」は、各年齢層共に「モンテッソーリ教育」を、さらには「聖書教育」、「運動(体育)」に重点をおいた保育活動を実施しているところである。よりよい保育を実施していくために、今年度『保育課程自己点検自己評価』を実施し、より一層保育の質の向上を図ることとした。まだ点検項目等その内容は十分とは言えないが、これまで実施してきた内容を取りまとめた。その結果、今回明らかになった改善すべき内容は、来年度の「保育課程」に反映させていくこととした。

### 1 ハレルヤ保育園の保育理念

社会福祉法人「プレイズザロード」は、福祉サービスの提供を、キリスト教精神に則って実施することを目的としている。その事業内容は、「ハレルヤ保育園」を設置し、保育事業をとおして、子どもの全人的発達を促すとともに、保護者が安心して子どもを預けることができ、併せて保護者の育児支援することを目的としている。このようなことから、ハレルヤ保育園の保育理念は、次のように掲げている。

『キリスト教精神に基づき、神と人を愛する自立した子どもを育て、育児にかかわる親を支援する。』

### 2 ハレルヤ保育園の保育目標

ハレルヤ保育園の保育目標は、『聖書に基づいて、万物の創造者を教えるとともに、モンテッソーリ教育で、身体の動かし方を教え、そのことにより自分の頭でよく考え、自分の身体をよく使って、自分のやりたいことを追求し、展開することができる子どもを育てる』ことである。

ハレルヤ保育園の保育活動の特色は、「モンテッソーリ教育」を導入していることとともに、「聖書教育」と「運動(体育)」に力を入れていることである。(「モンテッソーリ教育」を導入した経緯は、2011年5月1日作成の『ハレルヤ保育園1歳児におけるモンテッソーリ教育法導入に係る自己点検評価』の「3 ハレルヤ保育園の保育目標」参照)

### 3 保育課程

ハレルヤ保育園における今年度の「保育課程」の内容は資料1のとおりである。また、この保育課程に基づき月間の指導計画(月案)は資料2の様式を用いて子どもひとりひとりにその月の活動内容を、毎月前月末に作成している。

### 4 保育課程の作成過程

#### (1) 保育課程の作成

年間の「保育課程」は、毎年4月に入ってから、各クラスの担任保育士が従来からの年間指導計画書を踏まえながら、当該クラスの子どもの様子を十分に観察した上で原案を作成し、この原案を元にミーティング(園長、主任保育士及びクラス担任で構成。以下同じ。)で協議の上、追加修正して、4月中頃までにはその成案を作成している。

この「保育課程」の作成に当たっては、①保育理念の考え方や姿勢が具体的に生かされていること。②保育目標である「モンテッソーリ教育」「聖書教育」「運動(体育)」の各活動が各年齢層とも年間を通じて導入されていること。③保育所指導指針(平成20年厚生労働省告示第141号。以下「保育指針」という。)第2章に示されている子どもの「発達過程」の内容が踏まえられていること。④年間の保育計画を2期に分け、長期的な見通しや、それぞれの活動に幅を持たせ、「じっくりと・ゆったり」とした保育内容になっていること。⑤子どもの家庭環境、登園・退園時間等の通園環境も考慮された保育内容であり、その保育時間が十分に確保されていること。⑥保育内容が、子どもにとって最善の利益となるよう配慮されていること。特に、⑦0歳児から就学までの子どもの発達が連続するよう配慮されていること。⑧保育園での保育活動と、家庭生活における活動とが繋がるように設けられていること。

と。⑨早期教育にならないよう配慮されていることなどを十分に注意して作成しているところである。

## (2) 月間指導計画書(月案)の作成

「月間指導計画書」は、各クラスの担任保育士が各月初めに、「保育課程」と前月の月間指導計画書の「振り返り」を踏まえながら、当該月における保育の目標や方針を具体化した実践計画とともに、子ども一人一人の活動計画を記載した原案を作成し、この原案を元にミーティングで協議の上、追加修正して、その成案を作成している。

この「月間指導計画書」の作成に当たっては、①子ども一人一人の発達と課題を踏まえるように気を付けている。特に、「〇〇ができる」「〇〇遊びをしている」という目に見えることだけでなく、成長しようとしているその子どもの心情、意欲や態度という内面をも理解することに心がけている。また、②集団としての育ちを理解するようにしている。クラスにおける子ども一人一人の姿は異なるが、そこには共通した成長を観ることができる。見た目には違いがあっても、「友だちと一緒にやることを喜ぶ」という共通性が見られる。このようなクラスやグループの共通性を見出し、ねらいや内容を編成するようにしてきている。さらに、③特定の保育環境を構成するときには、前もって保育士が計画をし、子どもの行動や関心に合わせて、「子どもがすぐに手にとれる」「子どもがすぐに関われる」ように配慮している。

このように子どもの心身の発育・発達や、保育時間の長短等によって、子ども一人一人が異なることから、月間指導計画書の作成するときには、特に以下の事項に配慮して作成している。

### ア 3歳未満児保育

- ① 一人一人の発達の個人差が大きいので、個別に指導計画書を作成する。
- ② 保育士、栄養士、看護師等職員同士の連携は元より、保育園と家庭との連携をも密にし、子どもの24時間の様子を互いに把握するよう努める。
- ③ 子ども自身から、体調の変化を適確に伝えられないことから、保育士がいつもと違うわずかな変化に気付くことが重要であり、普段から健康状態を把握し、病気の早期発見や適切な対応に繋がるよう、細かなことも記録することとしている。
- ④ 複数担任制を執っていることからその協力体制作りが必要となる。子どもの情報は、書類の受け渡しで済ますことをせず、保育士同士が会話を交わすなどして、伝達漏れの無いようにしている。

### イ 3歳以上児保育

- ① この時期は、「友だちと一緒に」が楽しくなる頃である、基本は一人一人の成長であることから、集団指導計画のほかに個別保育計画(資料3)を作成するようにしている。子どもの成長に合わせ、また、その子の性格をも十分に配慮した内容で、きめ細かな指導計画を立てるようにしている。例えば、「保護者の思い」「援助と配慮」欄には保育士が記入して家庭へ、そして保護者には「〇〇ちゃんへの願い事」「お家でのエピソード・保育所への願い」欄に記入していただき、保育士と家庭との連携を図ってその子の成長を考え、その上で月間指導計画書を作成している。
- ② 子ども一人一人の成長の姿を予測し、その上で保育内容を考え、環境をも整えている。

### ウ 異年齢の編成による保育

子どもの年齢差に気を遣うのではなく、個々の子どもの成長の違いをしっかりと把握することから保育内容を考えることとしている。保育士の意図が入り過ぎた保育を行うことよりも、食事や遊び等日常生活の中で、子ども同士が如何に関わるかが大切であり、その中でのルールや譲り合い、思いやりの気持ちが育つような環境や保育を考慮するよう努めているところである。

### エ 長時間にわたる保育

- ① 一日の生活の流れを見通して、子どもが負担なく、落ち着いて過ごせるよう工夫している。「子どもにとって何が最善の利益になるか」という視点を持ち、子どもの一日の疲れや保護者を待つ気持ちなどを受け止めて温かい対応するようにしている。
- ② 保育士の勤務時間よりも、子どもの保育時間の方が長くなるので、保育士が交代する際には昼間の状況をしっかりと伝えることとしている。

### オ 障害のある子どもの保育

- ① 個別の対応に配慮しながら、集団での生活の中に位置づけている。障害のある子とそうでない子どもが共に育ち合うことができるようにしている。
- ② 日々の状況に応じて、柔軟に対応できるように、指導計画の作成に当たっては十分な余裕を持たせるようにしている。
- ③ 家庭との連携を密にし、保護者の思いを受け止めている。
- ④ 障害のある子に対しては、乳幼児から就学まで一環した対応が可能となるよう、保育園だけの指

導計画ではなく、地域の関係機関(滝沢村役場児童障害福祉課)、専門家(発達相談員)と連携し、指導計画が継続して行えるようにしている。

#### カ 小学校との連携

- ① 毎月の「個別保育計画」や「成長の記録」(各年齢の発達課題のチェック表。資料4)には、発達の連続性を分断することのないよう、就学までの生育の状態を的確に小学校に伝えることができるよう記載している。

#### キ 振り返り

今年度から、毎月末に、月間指導計画の項目を○(実施して達成できた)、△(実施したが達成できなかった)、×(実施できなかった)で囲み、一目でその月の振り返りができるようにした。「○」の項目については次の月では一歩進めた目標を設定し、「△」あるいは「×」については、何故に実施できなかったか十分な見直しを行い、その上で原則次の月も継続して行うこととしている。

また、この月間指導計画の振り返りや保育日誌等の保育実践記録を元に、保育環境の設定や、保育内容が適切だったか、家庭との連携はどうであったか等の自己点検を実施している。個人で振り返るだけでなく、毎週のミーティングや職員会議で互いに話し合い、各々の保育内容を振り返って次の月に反映させている。

#### (3) その他

本園では、「週間指導計画(週案)」の作成は実施していない。週間指導計画作成の主な目的は「年案・月案のねらいが多様な活動の中に調和的に組み込まれていく」ことであるが、本園は組織的に大きくなく、毎日の保育日誌記入による振り返りや、ミーティングによって、園長をはじめ、保育士同士が会話(言葉)によって常に確認していることから、また、事務的な負担を減らし、実質的な保育に時間をかけたいことから、週間指導計画の作成は実施していない。

### 5 「年間指導計画」から「保育課程」への変更に当たって

本園では、従来から保育指針を参考にして、子どもの最善の利益を考慮し、充実した保育内容とすることに重点を置き、「年間指導計画書」を作成してきた。保育指針が改定され、新たに「保育課程」を作成するようになって、保育内容そのものは、従来からの取り組みで実施してきたことと特段変わったわけではないが、しかし、特に、保育内容の充実を目指し、以下のことを意識して保育活動に当たるようになった。

#### (1) 養護と教育が一体となった取り組み

保育所は子どもの命を守り、情緒の安定を図りつつ(養護)、発達を促していくための活動の援助を行う(教育)施設である。日常の保育活動が、この養護と教育が一体となって行われているか、意識するようになったこととともに、反面、早期教育を行うことに流されていないか、この点についても月間指導計画書を作成するに当たって意識して注意をしているところである。

#### (2) 子どもの人格を尊重(「わたしはこうしたい／したくない」「わたしはこうしてほしい／してほしくない」といった子どもの声に耳を傾ける)

日々の子どもの思いを受け止め、保育士の都合で時間を区切った画一的な保育になっていなかったか改めて注意し、点検を行うようになった。特に、基本的な集団のリズムは守りつつ、保育の内容を柔軟に変えて対応していけるよう注意しているところである。

#### (3) 「保育の内容」の再点検

本園の「保育課程」が、保育指針の第2章「子どもの発達」と第3章「保育の内容」を参考に、子どもの生活や発達の連続性や、子どもはみなその子なりのペースで発達をしていること。また、同じ子どもでも様々な能力が同じ速さで発達していくとは限らないこと。保育士は一人一人の発達が今どの辺りにあるかを捉え、一人一人の発達のペースやその子が持っている能力の芽生えを培うことに努めるとともに、注意を払っていくことが必要である。これらのことを考慮し、そこからされていないかを常に再点検するようにした。また、「保育課程」の内容が、本園の「保育理念」「保育目標」に沿った内容となっているかをも再点検を行った。

#### (4) 食を営む力の基礎を培う

月間指導計画書の中でしっかり「食育」の計画を立て、クッキングの活動や給食時に食を通しての健康作りに取り組むようにした。今年度は、「食育クッキング記録簿」(資料5)を作成することにより、より充実したクッキングによる食育を図っているところである。

#### (5) 子どもの保育とともに、保護者支援への取り組み

従来「年間指導計画書」は、ともすると個人名の想定が懸念されることから、保護者等への公開

はしてこなかったが、「保育課程」としたことで、0歳児から5歳児までの保育課程を保育所内に掲示するとともに、ホームページ上で公開することにより、保護者に子育てに対する指針を提供し、本園の保育に対する安心感を持ってもらえるようにした。このことは、送迎時の保護者との会話や連絡帳を活用した家庭との遣り取りによって、「月間指導計画」や「個別保育計画」が、家庭と連携して立てられることに繋がり、さらには、このことが自ずと保護者一人一人の意向を受け止めた保護者支援に繋がっている。その際の基本姿勢として、保護者からの要望を全て受け入れるのではなく、保護者の勤務形態や家庭の状況等を十分に理解した上で、必要と思われる保護者支援を行っており、保護者支援でも、優先されるべきことは目の前の子どもの「最善の利益」であることに注意して実施しているところである。

#### (6) 保護者や地域の方々への「保育の内容」の周知

各職員が本園の「保育理念」と「保育目標」を理解し、本園で取り入れている「モンテッソーリ教育」「聖書教育」「運動(体育)」、運動(体育)は「リズム体操」「柳沢運動プログラム」を実施しているところである。これらの保護者への具体的な説明は、入園時に行うとともに、ホームページを活用して広く周知しているところである。

#### (7) 保護者からの苦情処理対応

保護者等からの苦情は、本園の出入口(2ヶ所)に苦情相談員(第三者委員)、苦情受付担当者及び苦情解決責任者の氏名を掲示するとともに、苦情や要望等を入れる箱を用意している。しかしその申し出はほとんど無い。このようなことから、本園では、登・退園時に保育士が保護者から聞いたことについては職員同士の共通理解を得るための「連絡ノート」に記載するようにしており、その中から、要望事項や苦情に繋がるような事項を拾い出し、ミーティングや職員会議で積極的にその対応を検討するようにし、事態を大きくならないうちに解決に当たるようにしている。

#### (8) 小学校との連携

本園で積み重ねられてきた子どもの育ちを、小学校での生活や学びへ繋ぎ合わせていけるようにするために、「保育所児童保育要録」を小学校に送ることが義務化されました。この「保育所児童保育要録」をしっかり記入するようにするために、その記入内容に沿った内容を記録できるよう「月間指導計画書」「成長の記録」を新たに作成しました。また、月間指導計画書の内容には「年長児が小学校に見学に行き、小学生に小学校内を案内してもらったり、校庭で一緒に遊ぶ」「小学生が総合学習の授業で保育園に見学に来て交流の場を持つ」「地域の幼稚園・保育園・小学校の職員が連携して会議等を実施する」等の項目も設け、これに沿って積極的に小学校と交流する機会をも持っているところである。

#### (9) 職員の資質向上

保育士一人一人が、自分で保育の計画を立て、実践し、自ら点検評価を行うとともに、園内外研修等で自己を磨き専門性を向上させて、保育の質の向上を目指している。その主な事例をいくつか紹介すると次のとおりである。

- ① 月間指導計画の内容の項目を「○△×」で囲み、一目でその振り返りができるようにして次の月に活かしている。
- ② 保育日誌の様式(資料6)を「エピソード記録」方式にして記録することにより『子どものエピソード → エピソードの考察・読み取り → 明日への展望』と、子どものことをよりよく観察するようになった。
- ③ 毎週のミーティング時に、普段の保育日誌や園外研修等で学んだこと、さらには「連絡ノート」から保護者の要望・苦情など課題や改善策を探る話し合いをするようにした。
- ④ モンテッソーリ教育について園内研修を年に数回開催。保育士等新規採用者にモンテッソーリ教育を理解させ日常の保育活動に生かしていけるよう、また、モンテッソーリ教師有資格者にあっては他の人に日頃の実践内容を紹介することによって基本的事項の理解を深める機会とし、自らの知識を向上させ、日常の保育活動の問題点の把握、問題点の分析、対処方法等の能力を高められるようにする。この研修は、保護者や地域の方々にも公開し、その内容はその都度報告書に取りまとめ、これも保護者等に公開している。
- ⑤ 職員の自己点検自己評価。職員の資質向上を目的として、各職員自ら年度初めに当該年度の取り組む業務の目標を定め、その実施状況の中間報告を秋口に提出し、年度末に自ら立てた目標の達成度を自己点検自己評価している。また、昨年度は「1歳児におけるモンテッソーリ教育法導入に係る自己点検評価」を、今年度は「2歳児におけるモンテッソーリ教育」と「3歳児におけるモンテッソーリ教育」の自己点検自己評価を実施しているところである。

## 6 保育課程の自己点検

本園の「教育課程」(資料1)を、①保育所指導指針との整合性について、②モンテッソーリ教育の導入について、③聖書教育について、④運動(体育)について、⑤食育について自己点検を行った。その結果は次のとおりである。

### (1) 保育課程と保育所保育指針との整合性

「教育課程」に書かれている内容と「保育所指導指針」との整合性についての点検結果は、概ね整合していた。敢えて細かな点を挙げると、子どもの発達と保育を捉える視点(内容・援助・配慮事項)が、子どもの心情、意欲、態度等の全体像となっていないことなどが挙げられる。このことからもっと細かく記載した方がより内容を理解しやすかったように思える。例えば、以下のような内容を加えておけばよかったと思量される。

#### ア 0歳児(赤ちゃん組)保育課程

<p>養護-生命(I期)</p> <p>(II期)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体、衣服等を常に清潔にする。</li> <li>・安全で清潔な玩具を用意する。</li> <li>・保育士の愛情豊かな関わりの中で生理的欲求を満たし、気持ちよく生活ができるようにする。</li> <li>・家庭との連絡を密に取りながら子ども一人一人の健康状態を把握し、異常のある場合は適切に対応する。</li> <li>・家庭との連絡を密に取りながら、一人一人の健康状態を把握し、発育発達に応じて関わる。</li> <li>・保育士の愛情豊かな関わりや受容により、一人一人の子どもの生理的欲求を満たし気持ちよく生活ができるようにする。</li> <li>・子どもが自分でやりたいという気持ちを受け止め、援助しながら満足感が感じられるようにする。</li> </ul>
<p>養護-情緒(I期)</p> <p>(II期)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が受け入れられているという気持ちを育めるよう、生理的欲求や精神的欲求を満たしてあげる。</li> <li>・保護者と密に連絡を取り、子どもの気持ちを共有し、必要な対応を継続することで安心感を持って過ごせるようにする。</li> <li>・子どもが気持ちを表現する喃語や身振り等に、優しく繰り返し応答していく。</li> <li>・自分以外の他人という存在を認め、自分の行動や存在を肯定する気持ちが育まれるように、信頼関係を築いていく。</li> <li>・心が癒されるように視線を合わせたり、優しく声をかけたりする。微笑みかけたり喃語や声、表情に応えたりする。</li> </ul>
<p>教育-健康(I期)</p> <p>(II期)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オムツを取り替えてもらい、きれいになった心地よさを感じる。</li> <li>・保育士の声や物音に反応し、見つめたり喃語を発したり体を動かして快・不快を表そうとする。</li> <li>・生理的欲求を受け止めてもらったり、やさしいことばかけを感じたりして、人に接する信頼感が芽生える。</li> <li>・運動機能が発達し自由に手足を使い周囲の人や物に興味を持ち、探索活動を楽しむ。</li> <li>・身振りや喃語で保育士とのやり取りを楽しむ。</li> <li>・自由に移動できる喜びと身近な環境への働きかけで、好奇心がより旺盛になる。</li> <li>・短い言葉の中にももった思いを保育士や大人に汲み取ってもらうことで、思いを伝える意欲が高まる。</li> <li>・応答的な環境の中で、特定の大人との絆を深める。</li> <li>・同じ物を見つめ共有して大人とのやり取りを心地よく感じ、様々な経験を繰り返し試す。</li> <li>・離乳食から幼児食へ移行する。</li> </ul>
<p>教育-人間関係</p> <p>(I期)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛情豊かな特定の大人と過ごすことを喜ぶ。</li> <li>・泣く、笑う等の表情の変化や体の動きで、感情を表現しようとする。</li> <li>・泣く、笑う等の表情の変化や体の動きや喃語などで自分の欲求を伝えようとする。</li> </ul>



(Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あやしてもらおうと喜ぶ等生活や遊びの中で身近な人に興味を持つ。</li> <li>・受動期に関わる大人とのやり取りを楽しむ。</li> <li>・身振りを真似る等して、自分から関わろうとする。</li> </ul>
教育-環境(Ⅰ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸外に出て植物や乗り物、動物を見て興味を持つ。</li> <li>・異年齢児との触れ合いを持つようになる。</li> <li>・身の回りにあるいろいろな遊具、玩具等に触れて遊べるようになる。</li> <li>・絵本等を通じて読んでもらったり見せてもらう。</li> <li>・大人に言葉をかけてもらいながらミルクを飲む。</li> </ul>
(Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸外遊びを通して動植物に親しんだり、直接草花に触れたりして体験を広げていく。</li> <li>・異年齢児との関わりが増える。</li> <li>・気に入った遊具を手にして遊んだり、いろいろな素材の遊具で遊んだりする。</li> <li>・整えられた環境の下で安全に活動できるようになる。</li> <li>・好きな絵本を繰り返し読んでもらう。</li> <li>・他の絵本を見たり読んだりしてもらい、知識を広げる。</li> <li>・基本的な生活習慣を繰り返し体験していく。</li> </ul>
教育-言葉(Ⅰ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周りの音や会話の声に関心を示し、その方向を見る。</li> <li>・あやされて笑い返す。</li> <li>・自分の周辺の出来事に関心を示す。</li> <li>・不快を取り除いてくれる保育士の声心地よと感じる。</li> <li>・何か目を見つめると、じっとそれを見てつかもうとする。</li> <li>・不快を取り除いてくれる保育士の声に応じて笑う。</li> <li>・自分が手に取ったものを動かすことで音が出ることを知り楽しむ。</li> </ul>
(Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・反復喃語が始まる。</li> <li>・情緒的、動作的認知が発達する。</li> <li>・身近な大人との関わりを楽しむ。</li> <li>・安心できる大人がゆっくり、優しく語り掛けることで、口元の動きを模倣し声を出して言葉を真似ようとする。</li> <li>・正しい調音の模倣はできないが、模倣を繰り返し楽しむ。</li> </ul>
教育-表現(Ⅰ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分に応答的に関わる特定の声や表情に安心感を覚え、感情が豊かになる。</li> <li>・音に興味を持ち、音の出るものを喜ぶ。</li> <li>・柔らかいものや温かいもの等の感触を楽しむ。</li> <li>・泣く、笑う等の表情の変化や体の動き、喃語等で欲求を表す。</li> <li>・特定の大人の声のする方をじっと見る。</li> <li>・快感、安心感や不快感、嫌悪感を感じることを表し、快感、安心感を感じるものを求めようとする。</li> </ul>
(Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲の人や物に興味を持つ。</li> <li>・興味を持った素材に触れて感触を楽しむ。</li> <li>・情緒的なつながりの中で、あやしてもらおうことを心地よく感じる。</li> <li>・大人に歌を歌ってもらおうことを楽しく感じる。</li> <li>・身近な大人に対し、意思や欲求を表情や身振りで伝えようとする。</li> <li>・大人の歌に合わせて体を揺らしたり、リズムを取ったりする。</li> </ul>

#### イ 1歳児(ひよこ組)保育課程

養護-生命(Ⅰ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人との関わりを十分に持ち、生理的欲求が満たされるようにする。</li> <li>・事故やけがのないように見守りながら、子どもの興味が広がり、深まるように関わっていく。</li> </ul>
(Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室内外の気温に留意し衣服調節を行い、快適に過ごせるようにする。</li> <li>・自分でやりたいという気持ちを引き出し、それを十分に受け止める。</li> <li>・自分でやろうという気持ちを受け止め、満足感が得られるように配慮しながら援助していく。</li> </ul>

養護-情緒(Ⅰ期)  (Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との連絡を密にし信頼関係を築くことにより、子どもの心の安定が図れるようにする。</li> <li>・喃語や一語文、身振り手振り等の表現を理解し、興味や気持ちに優しく応じ、満足感を感じられるように接する。</li> <li>・様々な音楽や絵本、紙芝居等を通して、豊かな情緒を育てていく。</li> <li>・友だちや周囲の存在を認め、興味や関心が高まり、関わりの中から自己肯定感や信頼関係が育まれるようにする。</li> </ul>
教育-健康(Ⅰ期)  (Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な人や物に自発的に働きかけ、好きな遊びを見つけてじっくり遊ぶ</li> <li>・室内の探索活動を楽しむ。</li> <li>・水遊びや外遊びを存分に楽しみ、水分補給や休息を十分にとる。</li> <li>・固定遊具やボール等の用具を使った運動遊びを楽しむ。</li> <li>・玩具を仲立ちとした見立て遊びを友だちや保育者と楽しみ、絆を深める</li> </ul>
教育-人間関係 (Ⅰ期) (Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者等の身近な大人に関わり、興味や親しみを持つ。</li> <li>・友だちと同じ遊びを楽しみ、親しみを感じて関わる。</li> <li>・好きな友だちと好きな遊びをじっくり楽しみ、一緒に過ごす喜びを感じる。</li> <li>・友だちの名前を親しみを込めて呼び、仲間意識を持つ。</li> <li>・物事の善悪に関心を持つ。</li> </ul>
教育-環境(Ⅰ期)  (Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢児との触れ合いで、自分も同じことをやろうとする。</li> <li>・「危ない」等の制止の意味を知り、安全に遊ぶ。</li> <li>・自分の体に興味を持ち、部位の名称がわかる。</li> <li>・色の違いがわかり、好みの色が出てくる。</li> <li>・友だちの物、個人の物の区別がつくようになり、自分の持ち物を大切にする。</li> </ul>
教育-言葉(Ⅰ期)  (Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者のゆっくりとした発音を真似て模倣しようとしたり、片言や身振りで自分の思いを伝えようとする。</li> <li>・季節の歌や手遊びを楽しむ中で、様々な言葉に触れる。</li> <li>・応答的な言葉のやり取りを楽しむ。</li> <li>・気に入ったフレーズやリズムのある言葉を楽しく話す。</li> <li>・知っている歌を大声で歌おうとする。</li> <li>・友だちや保育士との会話を楽しむ。</li> <li>・二語文が増え、会話が弾むようになる。</li> </ul>
教育-表現(Ⅰ期)  (Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由な表現を保育者と一緒に楽しむ。</li> <li>・友だちの行動に興味を持つ。</li> <li>・水の冷たさや心地よさを感じ、友だちと同じ思いを共有する。</li> <li>・絵の具を使った遊びを楽しむ。</li> <li>・自然素材や小麦粉粘土に親しむ。</li> <li>・自分のイメージを膨らませて、様々な素材や玩具・遊具を実物に見立て、独自の世を楽しむ。</li> </ul>

#### ウ 2歳児(ぱんだ組) 保育課程

養護-生命(Ⅰ期)  (Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事、排泄、午睡等が安定してできるように、一人一人に応じて対応していく</li> <li>・個々の健康状態に気を配り、水分補給や活動と休息のバランスに配慮する。</li> <li>・快適に過ごせるように、風通しや室温に気を配る。</li> <li>・体調や気候に合わせて衣服を調節する習慣をつける。</li> <li>・インフルエンザや風邪の予防策(手洗い、換気、清掃)を立て、取り組む。</li> <li>・基本的な生活習慣の習得を個々に合わせて援助し、一人でできた喜びを味わい自信が持てるようにする。</li> </ul>
養護-情緒(Ⅰ期)  (Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不安や要求を受け止めてもらい、安心して自分の気持ちを表せるように援助する。</li> <li>・自分でしたがるときは見守り、手助けが必要なときは援助する等、自分であろうとする気持ちを大切にする。</li> <li>・自分の物と友だちの物がわかり、友だちを意識しながら遊んだり行動したりできるようにする。</li> </ul>

教育-健康(Ⅰ期) (Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食後に自分で歯磨きをする。</li> <li>・戸外からもどたらうがいをする。</li> <li>・鼻汁が出たら自分でかもうとする。</li> </ul>
教育-人間関係 (Ⅰ期) (Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者や友だちと安定した関わりで安心して過ごす。</li> <li>・保育士等に気持ちを受け止めてもらいながら、少しずつ他者との関わりを持つようとする。</li> <li>・簡単なごっこ遊びで少しずつ相手を意識し、共通の遊びを進めようとする。</li> </ul>
教育-環境(Ⅰ期) (Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の持ち物やロッカー、靴箱に興味を示して覚える。</li> <li>・水遊び等、夏ならではの遊びを楽しむ。</li> <li>・散歩に出かけ、自然物を見たり触れたりする。</li> <li>・簡単な数・色・形等の違いを理解しようとする。</li> <li>・好きな玩具に進んで関わり、それを使って友だちごっこ遊びを楽しむ。</li> </ul>
教育-言葉(Ⅰ期) (Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手遊びや歌を保育者や友だちと一緒に楽しむ。</li> <li>・遊びを通して身の回りの色々な物の名称を覚える。</li> <li>・質問に答えたり、挨拶をしたりする。</li> <li>・思ったことや感じたことを手振り、身振りを交えて伝える。</li> </ul>
教育-表現(Ⅰ期) (Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハサミ、のり、クレヨン等の使い方を覚える。</li> <li>・全身を使って踊ったり、走ったりする。</li> <li>・絵本の登場人物や動物になりきって遊ぶ。</li> </ul>

### エ 3歳児(らいおん組)保育課程

養護-生命(Ⅰ期) (Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境の変化から不安を感じた行動が見られるので、一人一人の発達状態を把握し、安心できるよう配慮する。</li> <li>・遊びを楽しく満足させるための環境への安全、事故防止に努める。</li> <li>・快適な生活を覚え、安心して集団生活を過ごし、満足感が得られることに共感してあげる。</li> <li>・遊びを通して、生活への自発性が豊かになり、認めてあげることで成長の喜びを知らせていく。</li> </ul>
養護-情緒(Ⅰ期) (Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できる事は多少の時間はかかっても見守り、自信につなげてあげる。</li> <li>・自己中心的な感情が多く見られるが、人と関わる中で自己抑制や社会性を体験させ、知識を豊かにしてあげる。</li> <li>・友だちや保育士等との信頼関係が育ち、気持ちを伝え合うことができるようにする。</li> <li>・物事に意欲を持って取り組む気持ちを大切にし、できたことをほめ、心の安定に努める。</li> </ul>
教育-健康(Ⅰ期) (Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちの存在に関心はあるが、平行遊びを楽しむ。</li> <li>・戸外で様々な遊びを十分に楽しむ。</li> <li>・固定遊具や玩具を通して友だちと工夫して遊ぶ。</li> <li>・運動会の練習を通して、身体の機能が発達し、心豊かになる。</li> <li>・手洗いが習慣づき、病気の予防ができる。</li> <li>・基本的な生活習慣が身に付き生活を楽しむ。</li> <li>・自分の成長の喜びを知る。</li> </ul>
教育-環境(Ⅰ期) (Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸外遊びを十分楽しみ満足感を得る。草・虫・砂に触れる。</li> <li>・自らが体験したことを感性として身に付ける。</li> <li>・自然に心を動かしながら、保育士や友だちと共感し関心を持つようになる。</li> <li>・自然の動物を観察して、生き物の命の大切さを知る。</li> <li>・自然の動物を観察して、生き物の命の大切さを知る。</li> </ul>
教育-言語(Ⅰ期) (Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士や友だちとの会話、絵本の読み聞かせにより、言葉を習得し、簡単な会話を楽しむ。</li> <li>・生活での疑問を言葉で繰り返し聞こうとする。</li> <li>・生活発表会を通して、言葉の模倣遊びを楽しみ、言葉の意味を理解する。</li> <li>・自分の考えを言葉に変えて話をしたり表現できる。</li> </ul>

教育-表現(Ⅰ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気に入った遊びを繰り返し楽しむ。</li> <li>・見聞きしたものを模倣し、表現する。</li> </ul>
(Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさんの経験を積むことにより、絵の表現が上手になる。</li> <li>・冬の遊びを通して、想像力や自然への開放感が生まれる。</li> </ul>

#### オ 4歳児(きりん組)保育課程

養護-生命(Ⅰ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の健康状態や発達状態を把握し、適切に対応し自ら気付けるようにする。</li> <li>・子どもに健康や安全の大切さを知らせ、安全な環境作りに努める。</li> <li>・生理的欲求を満たせるよう、個々の生活リズムに合わせて快適な生活ができるようにする。</li> </ul>
(Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体調を把握し、自分で体の異常を訴えられるようにする。</li> <li>・基本的な生活習慣や態度を身に付ける。</li> <li>・子どもの発達を見通し、全身を使う運動を取り入れ、個々に合った活動ができるようにする。</li> </ul>
養護-情緒(Ⅰ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の生活に安定感を持ち、のびのびと友だちと関わっていけるようにする。</li> <li>・子ども同士の遊びを豊かにし、友だちとの関係の中で徐々に自分を発揮できるようにする。</li> </ul>
(Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やり取りを重ねる中、お互いのよさを認め合えるように、集団で一人一人のよさを活かしていく。</li> <li>・一生懸命やった後の満足感や達成感を味わう。</li> <li>・与えられた役割を責任持って果たすことで達成感を味わえるようにする。</li> <li>・遊ぶときと集中して取り組むときのけじめをつける。</li> </ul>
教育-健康(Ⅰ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全身で自然や様々なものと関わり、運動量の多い遊びに挑戦する。</li> <li>・身近な環境に興味を持って関わり、遊びを体得していく。</li> <li>・活動と休息のバランスのよい生活リズムに心地よさを感じる。</li> <li>・十分に遊んだ後は、自ら水分補給や休息をとろうとする。</li> <li>・プール遊びを通して健全な心身作りをする。</li> </ul>
(Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自他を区別し、保育士に共感してもらったり友だちと競争したりしながら遊ぶ</li> <li>・体の状態を意識し、異常を感じたらそれを保育士に伝える。</li> <li>・衛生的で安全な場所で、思い切り遊べる心地よさを知る。</li> <li>・五感で感じながら遊ぼうとする。</li> </ul>
教育-人間関係(Ⅰ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間といることの喜びや楽しさを感じながらつながりを深める。</li> <li>・保育士や友だちと一緒に遊ぶ楽しさを感じ喜んで登園する。</li> <li>・友だちのよさに気付き、一緒に活動する楽しさを知る。</li> </ul>
(Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己を十分に発揮したり、他者と協調して生活したりすることを楽しむ。</li> <li>・自ら挨拶をすることでコミュニケーション能力をつける。</li> <li>・生活や遊びの中で、決まりやルールの大切さに気付く。</li> <li>・友だちと楽しく活動するためにルールや約束を守ろうとする。</li> <li>・友だちと関わる中で相手の気持ちに気付いていく。</li> </ul>
教育-環境(Ⅰ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然等の身近な環境への関わり方や遊び方を体験していく。</li> <li>・様々なものの特性を知り、そのものの材質に興味を持つ。</li> <li>・身の回りのことを自分でやろうとする。</li> </ul>
(Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的を持って行動し、造る・描く・試すことで想像力を豊かにしていく。</li> <li>・園外保育等、いつもと違う場所に関心を持ち、その中で遊び方や楽しみ方を見つける。</li> </ul>
教育-言語(Ⅰ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の名前や文字に興味を持つ。</li> <li>・友だち同士、言葉で伝え合いながら、遊びの状況を共に理解しようとする。</li> </ul>
(Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本や物語に興味を持ち、イメージを広げたり、興味を持った文字を探し、読んでみようとする。</li> <li>・「ごめんなさい」「ありがとう」が言えるようにする。</li> <li>・会話を通し、友だちといることの楽しさを感じるようになり、つながりを深</li> </ul>

	める。
教育-表現(Ⅰ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活の中で様々な音・色・形・手触り・動き・味・香り等に気付いたり、感じたりして楽しむ。</li> </ul>
(Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちとイメージを言葉にして共有し、一緒に表現することを楽しむ。</li> <li>歌詞に興味を持ったり、リズム打ちを楽しみ、音楽やリズムに合わせてたりしようとする。</li> <li>イメージや意思、目的を持って表現する。</li> <li>友だちと一緒に音色を味わったり、リズム楽器で演奏したりする楽しさを知る</li> <li>感じたこと、考えたことを音や動き、描画や製作で表現する。</li> </ul>

#### カ 5歳児(ぞう組)保育課程

養護-生命(Ⅰ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活習慣を再確認し、健康な生活を送る為に必要な習慣を身に付けられるようにする。</li> </ul>
(Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>適度の運動と休息をとることの必要性を知らせ、健康に過ごせるようにする。</li> <li>健康診断等を通し、病気や事故防止等の認識を深められるようにする。</li> <li>基本的な生活習慣が身に付き、自分でできたことに自信や満足感を持てるようにする。</li> </ul>
養護-情緒(Ⅰ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育士との関わりの中で信頼関係を築き、自分の気持ちを伝え、安心して過ごせるようにする。</li> </ul>
(Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活リズムを整えることの大切さを理解できるようにする。</li> <li>保育士に認められたり褒められたりする中で、自分に自信を持って生活できるようにする。</li> <li>安定した生活リズムの中で、ゆったりと安心して過ごせるようにする。</li> </ul>
教育-健康(Ⅰ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育士や友だちとの関わりを楽しみながら、戸外でのびのびと遊ぶ。</li> <li>自分の体に関心を持ち、健康な生活を送る為に必要なリズムを身に付ける。</li> </ul>
(Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>病気の予防に関心を持ち、手洗いうがいをしたりして健康な生活習慣を身に付ける。</li> <li>寒暖を感じ、衣服の調節を行う。</li> <li>寒さに負けずに体を動かし、色々な運動遊びに取り組む。</li> <li>就学することに期待を持ち、早寝早起きの生活リズムを身に付ける。</li> </ul>
教育-人間関係(Ⅰ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループの活動を行う中で、遊びを工夫したり計画を立てたりして、友達とのつながりを深める。</li> </ul>
(Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなで協力し、一つの目標に向かってがんばる大切さや素晴らしさを知る。</li> <li>集団生活の中で自己主張をしたり相手の意見を取り入れたりしながら、協力しあう。</li> </ul>
教育-環境(Ⅰ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>小動物を飼育したり、野菜を栽培していく中で生命力、命の尊さを認識する。</li> <li>身の回りの事象や季節の変化に気づき、感性を豊かにする。</li> </ul>
(Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な自然の美しさを感じたり、自然物を使って、様々な遊びを楽しむ。</li> <li>自分たちの生活の場を、みんなで協力し合って、使いやすく整えたり飾ったりする。</li> </ul>
教育-言語(Ⅰ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育士や友だちの話をよく聞いて、内容を理解したり、自分の気持ちを伝えようとしたりする。</li> </ul>
(Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の経験や思い、考えを自分の言葉で話し、伝えていく。</li> <li>言葉や文字、記号等に関心を持ち、自分の思いを伝える手段として取り入れていく。</li> <li>文字に興味を持ち、言葉で遊びを楽しんだり、文字を書く楽しさを知る。</li> </ul>
教育-表現(Ⅰ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>水、砂、泥等の様々な素材に触れて遊びを展開していく。</li> </ul>
(Ⅱ期)	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌を歌ったり、楽器を使ったりしてリズムの変化を楽しむ。</li> <li>絵本、物語に親しみ、想像力を豊かにする。</li> <li>生活の中で感じたこと、考えたこと等を自由に表現する。</li> </ul>

#### (2) モンテッソーリ教育の導入について

各クラスにおいて子どもの育ちに応じた教材(「モンテッソーリ教育0～3歳までの育ちと手助け」

江口裕子著参照)やモンテッソーリ教育の分野(日常生活の練習、感覚教育、言語教育、算数教育、文化教育)の系統図(「モンテッソーリ教育理論と実践 1巻～5巻の各教具・教材カリキュラム」(系統図)参照)に基づきモンテッソーリ教育を実施しているところである。本園では、モンテッソーリ教育進捗表(資料7)を作成し、子どもたち一人一人の進捗状況を確認しながら0歳から5歳までの課程を系統立てて活動している。これらの活動も保育課程にすべて組み込まれている。

しかし、1歳児クラス(ひよこ組)、2歳児クラス(ぱんだ組)は、モンテッソーリ教育を行う際の環境設定についてしか記載していないので、クラスを構成する子どもの年齢に見合った具体的な活動内容を記載した方がよいと思う。

### (3)「聖書教育」について

朝の会、帰りの会、食前、毎週の礼拝等で、0歳から5歳まで繰り返し、祈ること、賛美歌を歌うこと、神様のお話を聞くことにより、万物の創造者がどなたであるかを伝え、神様と人とを愛する子どもに成長していくように保育課程に、各クラスを構成する子どもの年齢に見合った活動が組み込まれている。

### (4)「運動(体育)」について

主に「柳沢運動プログラム」「リズム体操」を中心に、各クラスを構成する子どもの年齢に見合った活動を実践して運動能力の向上に努めているところである。

柳沢運動プログラムでは、マット運動(ゆりかご → 側転)、跳躍運動(うさぎ跳び → リズミカルにジャンプ)、支持運動(犬歩き → アザラシ歩き)、懸垂運動(よじ登り → 渡り棒)、縄跳び(縄に慣れる → 短縄跳び)、跳び箱(跳び下り → 開脚跳び越し)、鉄棒(跳びあがり → 逆上がり)ができるように、リズム体操では、『どんぐりころころ』で足の親指で床をける』から始まり、『毛虫』で3人組、あるいは8人組の「リズム遊び」ができるようプログラムが構成されているが、これらはいずれも保育課程に組み込まれている。

しかし、1歳児クラス(ひよこ組)と2歳児クラス(ぱんだ組)は具体的な内容、例えば、「重い物を持って運ぶ」「三輪車をこぐ」などを記載するとよかったと思う。また、リズム体操の内容をも記載するとよかったと思う。

### (5)「食育」について

健康な生活の基本としての「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培うことを目標として以下のことを保育課程に組み入れ、各クラスを構成する子どもの年齢に見合った食育を行っている。

- ・ミルク→離乳食→普通食へのスムーズな移行
- ・自分で食べることへの意欲を持たせる
- ・スプーンや箸、食器の正しい持ち方
- ・作物の栽培により食に対する関心を高める
- ・クッキングをすることにより食に対する関心を高める
- ・よくかんで食べる習慣をつける
- ・楽しく食べる
- ・食事のマナーを身に付ける
- ・食べ物と身体(健康)の関係を知り、食べようとする意欲を持つ

## 7 保育課程自己評価

2011年度より、園長職に就いて、いくつかの点で改定を行ってきた。その主なものをまとめてみると次のとおりである。

### ・3歳以上児の個別保育計画

本年10月までは、この資料に記載してあるように、保育者が記入した「保育者の思い」「援助と配慮」を保護者が見て、保護者が「〇〇ちゃんへの願い事」「お家でのエピソード・保育園への願い」を記入していた。つまり、個別保育計画作成の順序が、保育者→保護者であった。しかし、この形では、保護者の思いを知る前に、保育者が目標を記入してしまうことから、保護者の子どもに対する思いを反映する目標を、保育者が作成することができない。また、保育者から保護者への子どもへの見かたに対する助言やコメントも、1月遅れで読んでもらうことになる。そしてなにより、この流れは、保育園主体での子育てになり、本園が保育理念に掲げ行なっている「育児に関わる親」への支援の形の間違った形であると思った。そこで、以下のように変更した。個別保育計画のフォームはそのまま、作成の順序を変えたのである。まず保護者が「〇〇ちゃんへの願い事」「お家でのエピソード・保育園への願い」を記入し、それを保育者が読んで、親の思いを汲んだ「保育者の思い」「援助と配

慮」を記入するのである。つまり、保護者→保育者という順序で個別計画を作成することとした。保護者へは、こうすることで、子育ての主人公を親に返すのだ、と説明した。

本園では、かねがね、子育ては親の責任、親が主人公であるという認識を持ち、ともすれば保育園任せ、責任逃れになりがちな保護者に対して、その責任と権利を認識させていきたいと考えていた。この個別保育計画も、保護者の考えを保育に反映するために取り入れたものである。しかし、実施してみると、保護者の中には、計画書に記入しないもの、計画書自体を紛失してしまうものがいた。また、本園では、子どもの自律心を育てるために、子どもが自分で着替えられるものを着せてほしいと、常日頃から保護者にも話しているが、子どもに自分では着脱困難な服を着せてきて「やってちょうだい」と保育者に話せるように指導してほしい、というような、保育園の方針とは異なった要求をしてくる保護者もいた。そのような保護者に対して、今一度、子育ての責任と権利を思い起こさせる契機になればいいなと願う。

#### ・保護者支援への取り組み

かつては「保護者支援」の名の下に、保育園が保護者の要望をひたすら全て受け入れるというようなことがあった。しかし、それは、保護者の子育てに対する権利と責任を、保育園が代行、搾取してしまうことにつながる。何よりも、保護者と一緒に過ごすことを望んでいる子どもの「最善の利益」を奪うことになる。それは、間違った保護者支援であると考え。ハレルヤ保育園が考える保護者支援とは、保護者が、子育てに喜びを見出す援助であり、保育園が、子育ての喜びも困難さも分かち合うことが出来る、保護者の「隣人」となることである。2011年度の保育活動の取り組みの中で、「保護者も誉めて伸ばす」という活動を実施したクラスがあった(2歳児クラス)。その中で、保護者の中には、子育てのことを他人になかなか相談できない人もいる、子育てについて相談できる人が身近にいない保護者がいる、ということが分かった。また、「お母さんも頑張っていますね！」というような子育てを誉められる、という経験をしている人が少ないことも分かった。そんな保護者の子育てを誉めたり、見守っていると、保護者は、保育者に誉められたことで喜んだり、子育てにやる気を起こしてくれたようだ。これこそ、真の子育て支援といえるだろう。

#### ・保育日誌の書き方

今年度、変更したことの中に、保育日誌のフォームがある。ハレルヤ保育園では、保育者に「子どもの見かた」の能力の向上を求めている。それを「保育日誌を記入する」という活動の中で、培うことが出来れば、と以前から考えていた。そこで、今回「保育の質を高めるための取り組みの具体的提案」(益社団法人全国私立保育園連盟 保育・子育て総合研究機構)の中の「〈提案1〉日誌を活用した方法」を参考に、フォームの変更を行った(資料6参照)。これによって、保育者達は、今までよりも、子どもの姿、子どもの行動の意味を考え、そのために更に子どもを観察するようになってきていると思う。出来事を羅列するだけの保育日誌では、その出来事が起こった理由、それに関わる子どもの思い、などを保育者が考察する機会を失ってしまう。本園が取り入れている、モンテッソーリ教育においても、子どもに関わる大人が「子どもを観察すること」の大切さは、何度も強調されている。本園は、保育者の第1の資質として、この「子どもを観察する能力」を挙げたいと思う。

#### ・「こどものいいところ発見ノート」の作成

本園では「神と人を愛する自立した子どもを育て」ることを保育理念に掲げている。また聖書には、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」という御言葉がある。人間は、まず自分を愛し、その愛で他の人をも愛せるのである。しかし、こんなデータがある。日本人は、「自分にいいところがある」と思う人が少ないというのである。そこで本園では、涌津保育園の実践研究(平成23年度岩手県保育研究発表会発表資料55頁)を参考に、「こどものいいところ発見ノート」を作成し、全職員が全園児の「いいところ」「素敵だと思ったところ」を記入し、共通理解を行い、何度でもその子を誉める、という活動を行うことにした。本園は、小規模園なので、今まででも職員間の園児についての話題交換は、スムーズに行えていたが、このノートを作ったことで、更に多くの職員が、子どもに関わりを持つことができ、子ども達も何度も誉められることで、自信感を育てていくことが出来る、と期待している。園便りにも載せて、保護者にも子ども達の姿を知らせた。

#### ・職員のプレゼンテーション能力の向上のために

保育の仕事は、大きく分けて2つだといえる。子どもに関わることと、大人に関わることである。多くの保育者達は、子どもが好きでこの職業を選択しているのであるから、子どもに関わることは、好きだし、得意だろう。しかし、専門職である保育者であるからには、大人に関わることの技術も磨かなければならない。大人に関わることで、保育者の仕事として重要になってくることが、プレゼンテーション能力であると考え。この能力が無い、もしくは足りなければ、保護者とのコミュニケー

ションにおいて支障をきたすであろうし、せっかく素晴らしい保育活動を行っても、評価されないかもしれない。また、研修などに参加して、素晴らしい実践を見てきたとしても、他者にプレゼンテーションできないという事は、本人も本当に理解しているとは言えない、と考えたからである。本園でも、職員のプレゼンテーション能力の向上の為に、2011年度、色々な提案を行った。ここで活動と言わないで「提案」としたのは、園長の思いつきで、職員に準備無しで実施してもらったことであつたからである。行った活動は、以下である。

- ① ミーティングで研修報告を行う
- ② ミーティングで保護者対応の実践例を発表する
- ③ 職員会議後、園内研修としてモンテッソーリ教育の研修を行い、研修担当を有資格者が行った
- ④ 礼拝に参加する職員が、交代で礼拝の司会、ゲームの企画、リードを行った
- ⑤ 職員会議で月の賛美の伴奏を行った

これらの活動を行うことで、職員が自分で発表する機会が増えた。そのため、系統的に考えて、相手に分かるように話す訓練にもなったと思う。それがひいては、子ども達に分かりやすく話す練習にもなる。今後も、どんどん実践例を増やしていきたいと考えている。

#### ◎ 今年度の実践を踏まえて、今後の展望

来年度は、現在も行っている「保育参加」において、もっと親御さんにも保育者として活躍していただくとう、考えている。今の保育参加においては、自分の子どもだけを見る、自分の子どもも見ない(ただ、保育活動をしている場所にいる)という親の姿がある。それでは、せっかく保育園の生活に「参加」してもらっている意味が無い。そこで、親にも先生となってもらって、保育活動をしてもらおうと考えているのである。そして、子どもとの関わり方、子どもの見かたを学んでほしい。

#### ◎ 保育園運営の立場から

この自己点検を作成して、もう一度認識し直したことがある。それは、保育園の役割、保育者の基本姿勢は「子どもの最善の利益を求める」ということである。昨今は、それがたとえ、保護者の考え、姿勢に反するものであっても、という事例が報告されている。保育園が、子どもの代弁者として、保護者に説明していく、という責任を担っているのである。保護者の中には、自分が休みの日でもかまわず子どもを保育園に預ける人が未だにいる。子どもは、週6日出席になる。毎日、長時間保育を行っている子どもは、肉体的にも精神的にも休まるどころが無いだろう。なにより、人間関係の根本となる、母子関係、親子関係がそんなにか細いものでいいのだろうか。保育園が、保護者の要求を全て受けていると、それを助長してしまうことにもなる。本園では、「子育ての権利、責任は親のもの」という考えに基づいて、今年度色々な変革を行ってきた。現場の保育者が保育活動を行うのに少しでも効率化、合理化を図れて入れれば、幸いである。

さて、「保育課程」については、本園では今回の「保育所指導指針」の改定に伴い、本園の保育課程を大きく見直し、よりよいものにしようとして努めてきたところである。特に、ゆったりした視点で保育できるようにと、1年の活動時期を「4期」から「2期」へと変更し、保育の内容が新保育所指導指針に整合するように努めてきた。

その結果、保育内容は以前よりも充実したが、まだまだ、0歳児(赤ちゃん組)から2歳児(ぱんだ組)までの保育内容の連続性がわかりづらいなど、保育課程や月間指導計画の書式やその書き方を改善する必要があるように思える。特に、各保育士は当然のこととして保育活動に当たっていることも、「保育課程」には記入されていないことが判明し、保育内容を保護者の方々に正しく理解してもらうためにも「保育課程」の記載内容を十分に吟味する必要性を感じた。

今回の「自己点検自己評価」での改善すべき点は、来年度の保育課程の見直しの際に反映させたいと思う。

以上